

障害のある人に対する理解について

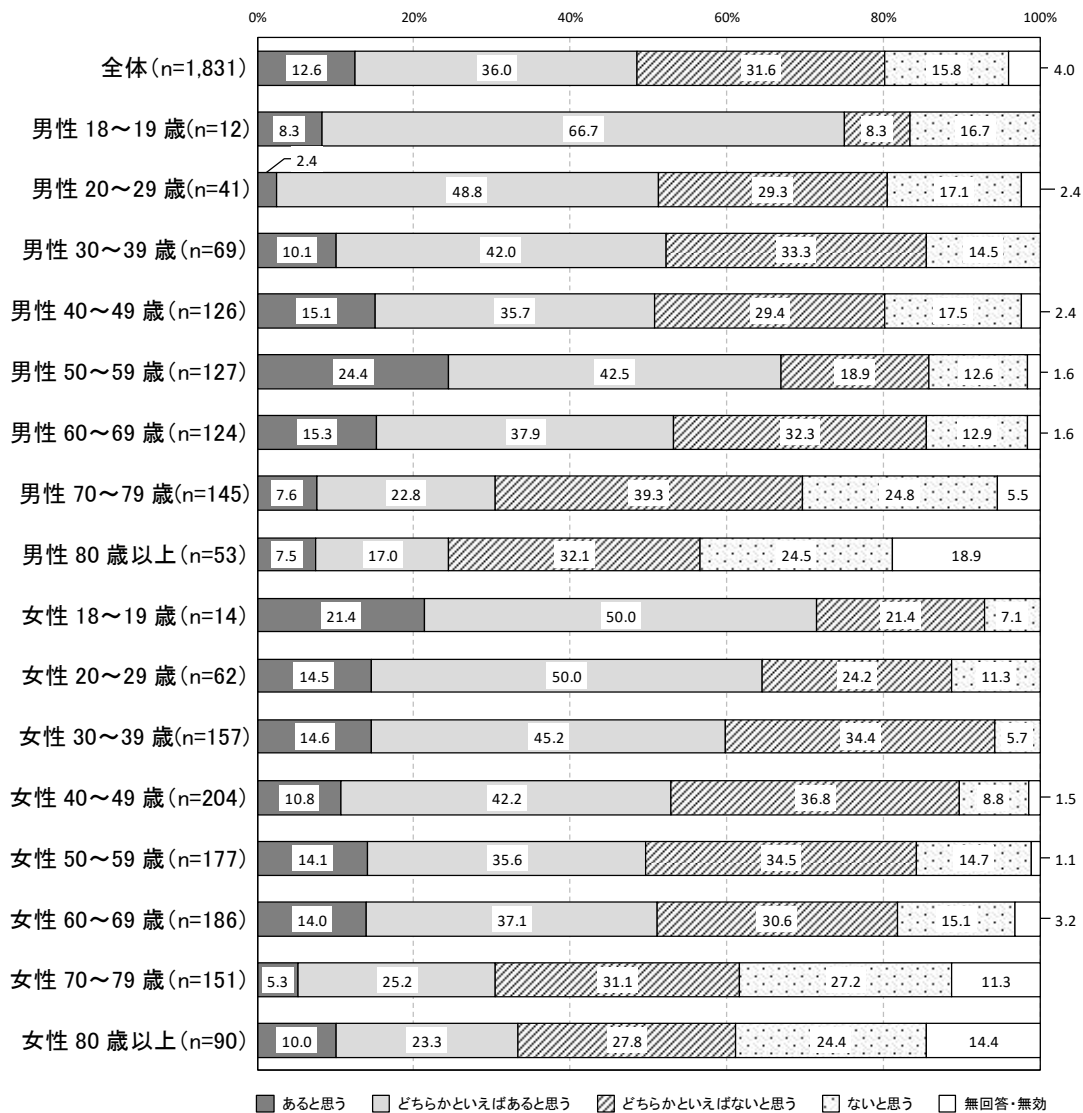
西宮市では、障害のある人に対する理解の促進に取り組んでいます。この調査結果を今後の啓発活動の参考にしたいと考えています。

問 26 あなたの身の周りで、障害のある人に対して、差別や偏見があると思いますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

障害のある人に対して差別や偏見が「あると思う」人は約13%。

- ・ 回答者全体で障害のある人に対しての差別や偏見について12.6%が「あると思う」、36.0%が「どちらかといえばあると思う」と回答しており、合計で48.6%が差別や偏見の存在を意識している。
- ・ 年齢・性別に見る回答の割合は、男女共に70歳以上で「ないと思う」が高い傾向にある。

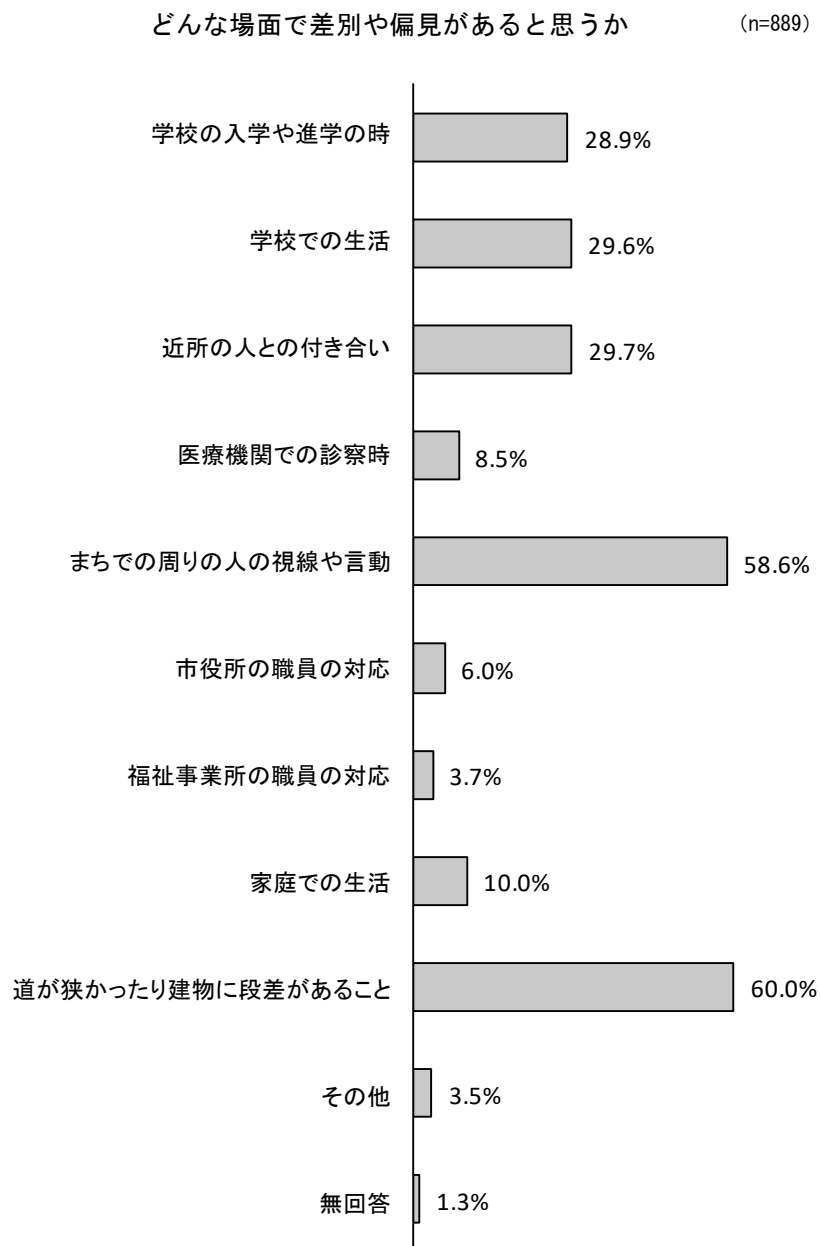
障害のある人への差別や偏見があると思うか



問 27 問 26 で「あると思う」・「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。あなたは、身の周りのどんな場面で差別や偏見があると思いますか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

差別や偏見があると思う場面として最も多い回答は「道が狭かったり建物に段差があること」。

- 差別や偏見があると思う場面として、最も多い回答は「道が狭かったり建物に段差があること」で 60.0%、次いで「まちでの周りの人の視線や言動」が 58.6%となっている。
- その他としては、「職場での対応」などといった回答があった。



- ・ 年齢・性別に見る回答の割合は、「道が狭かったり建物に段差があること」は 50～60 歳代の女性で高い傾向にあり、「まちでの周りの人の視線や言動」は男女共に若い世代で高い傾向にある。

(単位：%)

	学校の入学や進学の時	学校での生活	近所の人との付き合い	医療機関での診察時	まちでの周りの人の視線や言動	市役所の職員の対応	福祉事業所の職員の対応	家庭での生活	道が狭かったり建物に段差があること	その他	無回答
全体(n=889)	28.9	29.6	29.7	8.5	58.6	6.0	3.7	10.0	60.0	3.5	1.3
男性 18～19 歳(n=9)	44.4	33.3	<u>0.0</u>	0.0	66.7	11.1	0.0	11.1	<u>33.3</u>	0.0	0.0
男性 20～29 歳(n=21)	<u>14.3</u>	47.6	23.8	9.5	71.4	4.8	0.0	4.8	57.1	0.0	0.0
男性 30～39 歳(n=36)	27.8	33.3	30.6	8.3	55.6	5.6	5.6	2.8	61.1	5.6	2.8
男性 40～49 歳(n=64)	34.4	39.1	37.5	10.9	60.9	7.8	3.1	20.3	<u>50.0</u>	3.1	0.0
男性 50～59 歳(n=85)	31.8	32.9	32.9	7.1	68.2	9.4	4.7	8.2	56.5	4.7	2.4
男性 60～69 歳(n=66)	25.8	<u>18.2</u>	22.7	6.1	56.1	7.6	4.5	1.5	65.2	0.0	0.0
男性 70～79 歳(n=44)	<u>13.6</u>	<u>11.4</u>	31.8	4.5	52.3	11.4	4.5	2.3	56.8	2.3	0.0
男性 80 歳以上(n=13)	<u>15.4</u>	30.8	38.5	23.1	<u>46.2</u>	15.4	7.7	23.1	61.5	15.4	0.0
女性 18～19 歳(n=10)	20.0	60.0	20.0	0.0	70.0	0.0	0.0	20.0	<u>30.0</u>	0.0	0.0
女性 20～29 歳(n=40)	25.0	27.5	25.0	7.5	72.5	10.0	5.0	10.0	<u>47.5</u>	2.5	5.0
女性 30～39 歳(n=94)	42.6	47.9	29.8	7.4	67.0	4.3	3.2	20.2	64.9	3.2	0.0
女性 40～49 歳(n=108)	31.5	30.6	23.1	6.5	57.4	2.8	1.9	9.3	62.0	4.6	1.9
女性 50～59 歳(n=88)	34.1	28.4	30.7	11.4	54.5	4.5	5.7	11.4	73.9	4.5	0.0
女性 60～69 歳(n=95)	23.2	22.1	28.4	10.5	<u>47.4</u>	2.1	3.2	10.5	74.7	6.3	1.1
女性 70～79 歳(n=46)	<u>15.2</u>	<u>15.2</u>	34.8	6.5	54.3	6.5	4.3	<u>0.0</u>	54.3	0.0	0.0
女性 80 歳以上(n=30)	20.0	<u>16.7</u>	56.7	16.7	50.0	6.7	3.3	10.0	<u>43.3</u>	3.3	6.7

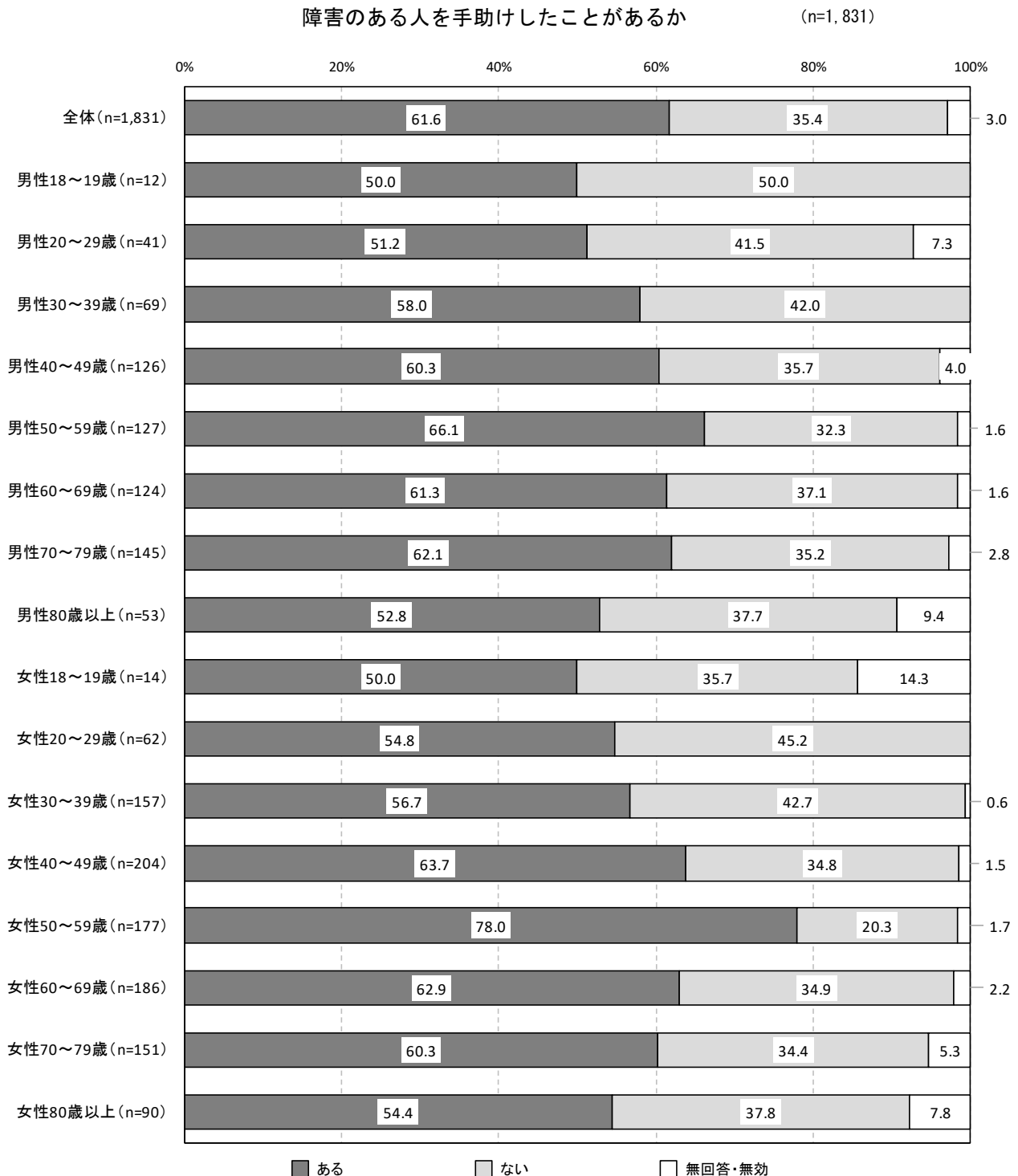
※表内の網掛け部分は、全体を 10 ポイント以上上回るものを示している。

表内の下線斜体部分は、全体を 10 ポイント以上下回るものを示している。

問 28 あなたは、障害のある人が困っている時に手助けをしたことがありますか。

障害のある人を手助けしたことが「ある」人は約 62%。

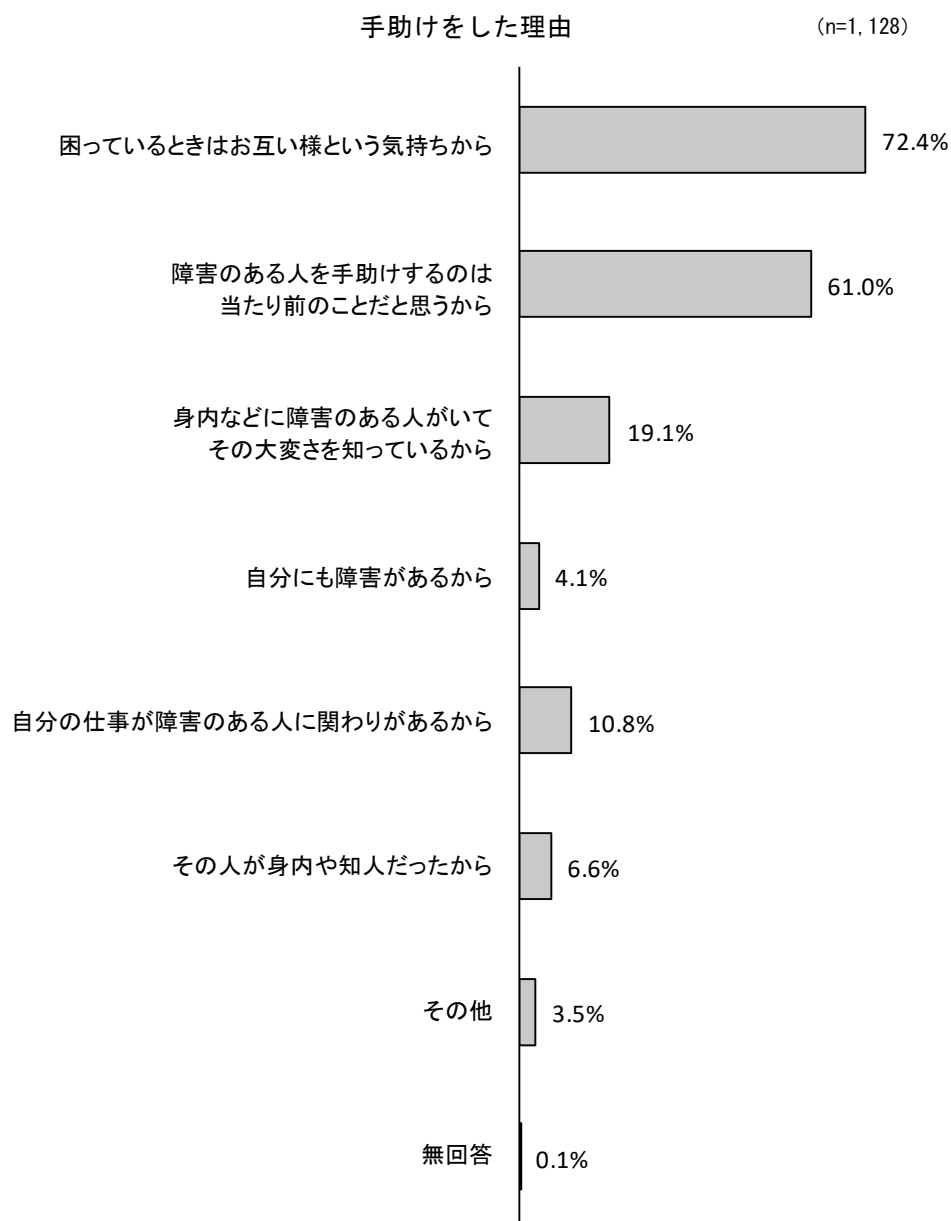
- ・ 回答者全体で障害のある人を手助けしたことが「ある」人は 61.6%となっている。
- ・ 年齢・性別に見る「ある」と回答した人の割合は、男女共に 50 歳代が最も高く、男性は 66.1%、女性は 78.0%となっている。



問 29 問 28 で手助けをしたことがあると答えた方にお聞きします。あなたは、なぜ手助けをしましたか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

手助けをした理由として最も多い回答は「困っているときはお互い様という気持ちから」。

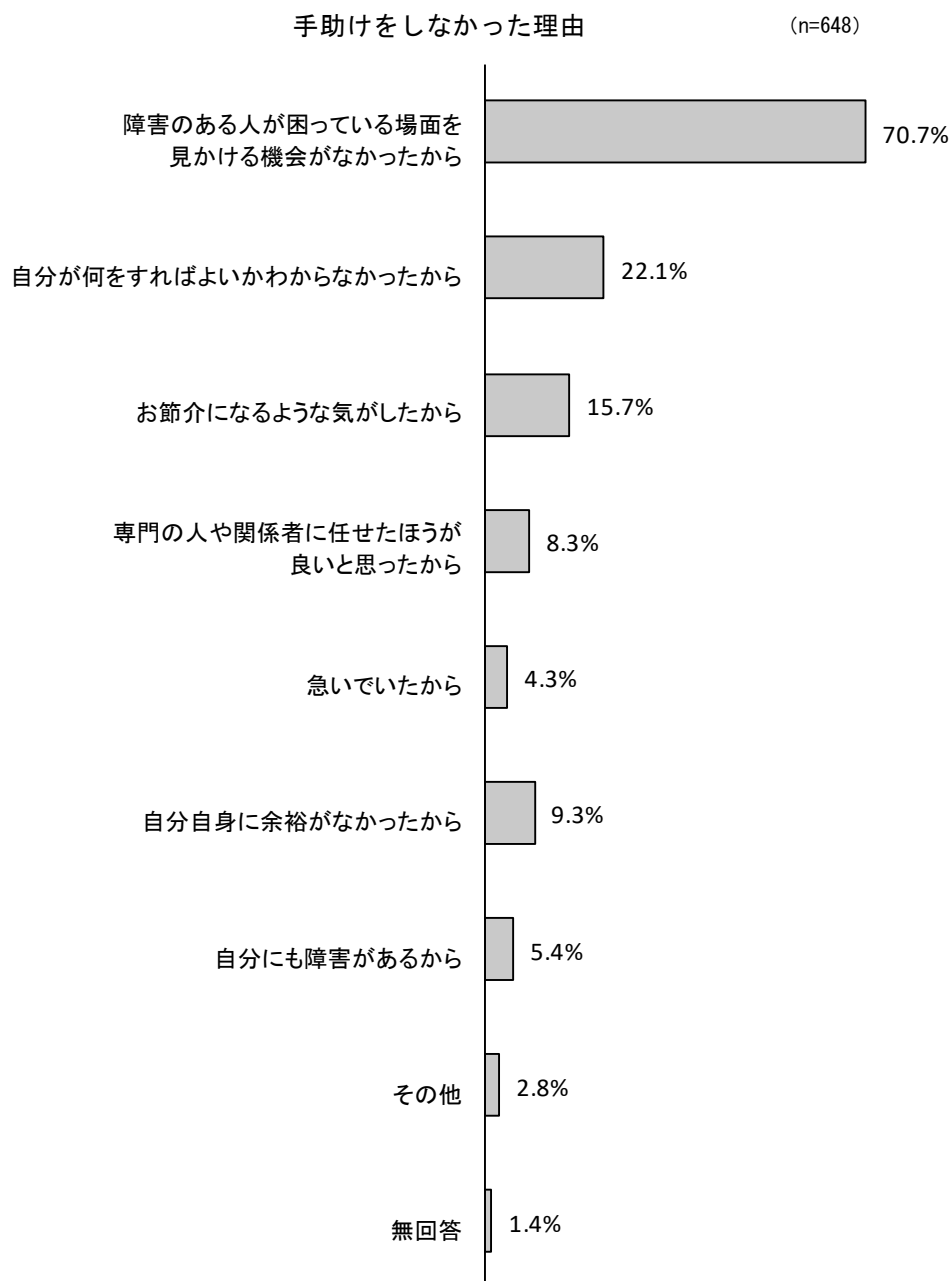
- 手助けをした理由として、最も多い回答は「困っているときはお互い様という気持ちから」で72.4%、次いで「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」が61.0%となっている。
- その他としては、「特に意識せず、自然に行動に出た」や「手助けをしないと危険な状況であったから」などといった回答があった。



問 30 問 28 で手助けをしたことがないと答えた方にお聞きします。手助けをしなかった理由として思いあたることは何ですか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

手助けをしなかった理由として最も多い回答は「障害のある人が困っている場面を見かける機会がなかったから」。

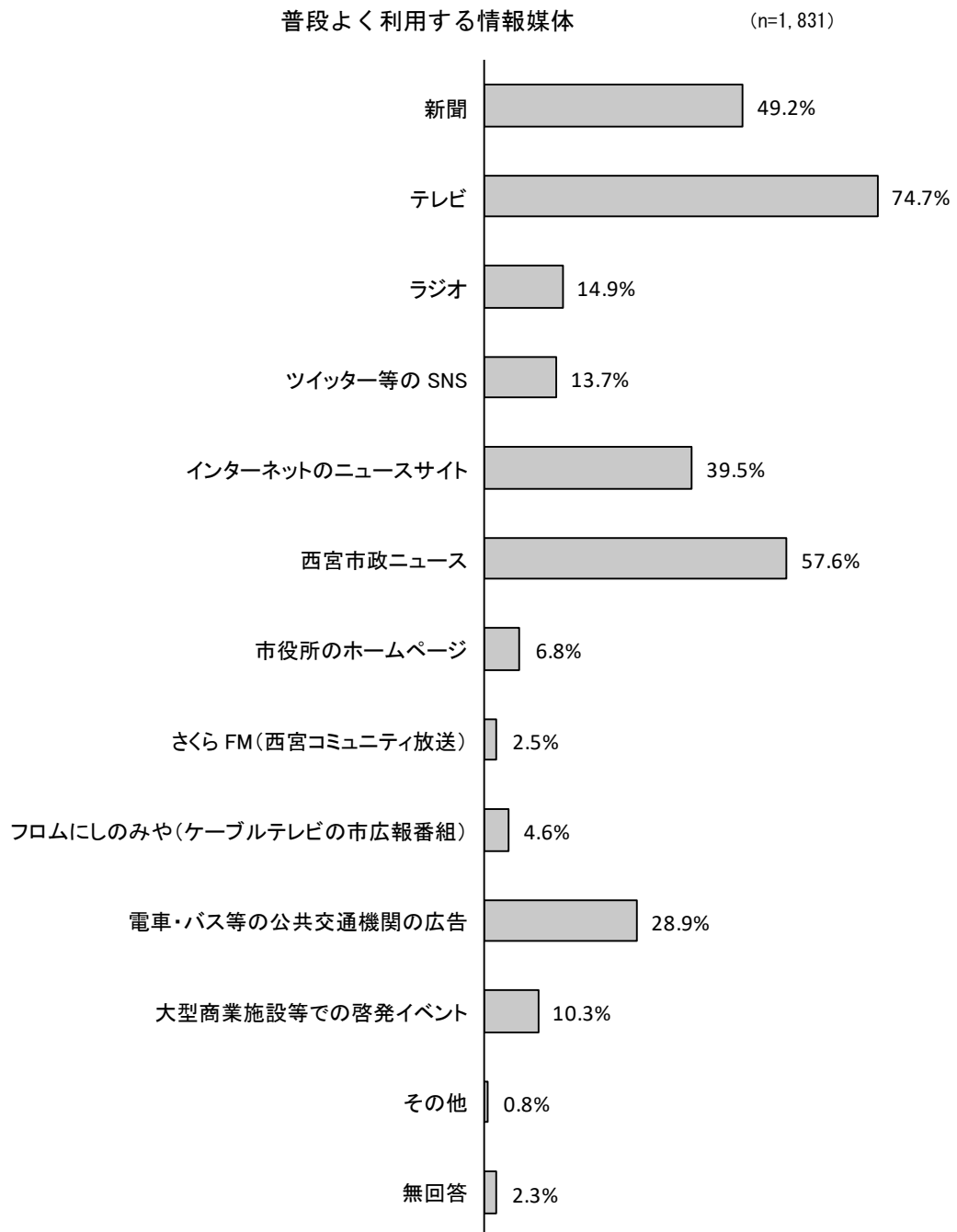
- 手助けをしなかった理由として、最も多い回答は「障害のある人が困っている場面を見かける機会がなかったから」で70.7%、次いで「自分が何をすればよいかわからなかったから」が22.1%となっている。



問 31 市では、障害のある人に対する理解を深めるための情報の発信を行っていきたいと考えています。あなたが普段よく利用する情報媒体は何ですか。あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

普段よく利用する情報媒体として最も多い回答は「テレビ」。

- 普段よく利用する情報媒体として、最も多い回答は「テレビ」で74.7%、次いで「西宮市政ニュース」が57.6%となっている。



- ・ 年齢・性別に見る回答の割合は、「テレビ」は全ての年齢で男女問わず高い。「新聞」および「西宮市政ニュース」は高齢の世代で高い傾向にあり、「ツイッター等のSNS」および「インターネットのニュースサイト」は若い世代で高い傾向にある。

(単位：%)

	新聞	テレビ	ラジオ	ツイッター等のSNS	インターネットのニュースサイト	西宮市政ニュース	市役所のホームページ	さくらFM(西宮コミュニティ放送)	フロムにしのみや(ケーブルテレビの市広報番組)	電車・バス等の公共交通機関の広告	大型商業施設等での啓発イベント	その他	無回答
全体(n=1,831)	49.2	74.7	14.9	13.7	39.5	57.6	6.8	2.5	4.6	28.9	10.3	0.8	2.3
男性 18~19 歳(n=12)	<u>16.7</u>	66.7	<u>0.0</u>	58.3	<u>25.0</u>	<u>16.7</u>	0.0	0.0	0.0	41.7	<u>0.0</u>	0.0	0.0
男性 20~29 歳(n=41)	<u>14.6</u>	75.6	<u>4.9</u>	53.7	63.4	<u>14.6</u>	7.3	0.0	0.0	34.1	7.3	0.0	2.4
男性 30~39 歳(n=69)	<u>27.5</u>	66.7	8.7	29.0	72.5	<u>39.1</u>	5.8	0.0	1.4	27.5	15.9	0.0	1.4
男性 40~49 歳(n=126)	41.3	75.4	13.5	11.9	53.2	<u>41.3</u>	4.0	5.6	5.6	33.3	6.3	0.0	0.8
男性 50~59 歳(n=127)	58.3	74.0	19.7	7.9	59.1	48.8	9.4	2.4	3.9	32.3	9.4	1.6	0.8
男性 60~69 歳(n=124)	62.9	79.8	21.0	5.6	37.9	59.7	9.7	6.5	8.1	21.0	10.5	0.8	0.8
男性 70~79 歳(n=145)	75.2	84.8	26.2	<u>0.7</u>	<u>19.3</u>	75.2	6.2	2.8	6.9	<u>15.2</u>	9.0	0.7	2.1
男性 80 歳以上(n=53)	75.5	75.5	24.5	<u>1.9</u>	<u>11.3</u>	71.7	11.3	3.8	1.9	20.8	5.7	0.0	9.4
女性 18~19 歳(n=14)	<u>7.1</u>	<u>50.0</u>	7.1	71.4	57.1	<u>0.0</u>	7.1	0.0	0.0	35.7	<u>0.0</u>	7.1	0.0
女性 20~29 歳(n=62)	<u>9.7</u>	<u>53.2</u>	<u>0.0</u>	69.4	61.3	<u>9.7</u>	3.2	1.6	0.0	41.9	6.5	1.6	1.6
女性 30~39 歳(n=157)	<u>19.1</u>	72.6	5.1	27.4	57.3	49.7	7.6	0.0	1.3	35.0	16.6	0.0	1.9
女性 40~49 歳(n=204)	40.2	72.1	6.9	16.7	55.4	54.9	8.3	1.5	2.5	33.8	13.7	0.5	1.0
女性 50~59 歳(n=177)	45.8	74.0	12.4	10.2	46.9	59.9	10.7	2.8	7.3	35.0	18.6	1.1	1.1
女性 60~69 歳(n=186)	64.0	81.7	22.0	<u>3.2</u>	<u>25.3</u>	79.6	5.9	1.6	5.4	29.0	10.2	0.5	1.1
女性 70~79 歳(n=151)	60.3	76.8	19.2	<u>0.7</u>	<u>4.0</u>	76.2	2.0	2.0	6.6	25.2	6.0	1.3	4.6
女性 80 歳以上(n=90)	73.3	75.6	21.1	<u>2.2</u>	<u>4.4</u>	76.7	3.3	4.4	3.3	<u>17.8</u>	4.4	1.1	10.0

※表内の網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。

表内の下線斜体部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

施策に向けての一言 <障害のある人に対する理解について>

問 26 は障害のある人に対する差別や偏見についての認知を尋ねる設問である。全体としては「あると思う」との回答が 12.6%、「どちらかといえばあると思う」が 36.0%あり、約半数が差別や偏見の存在を感じている。性別・年代別にみると 50 代男性の 24.4%が「あると思う」を選択しており、この値は相対的に突出している。逆に男女とも 70 代以上は差別や偏見について「ないと思う」との回答が多世代と比べると多い傾向にある。

問 27 は身の周りのどんな場面で差別や偏見を感じるかについて尋ねている。最も多いものは「道が狭かったり建物に段差があること」の 60.0%で、バリアフリー対応の重要さがうかがわれる。これに次ぐのが「まちでの周りの人の視線や言動」の 58.6%で、6 割程度の人が周囲の対応に差別や偏見を感じていることがわかる。また「近所の人との付き合い」「学校での生活」「学校の入学や進学の時」などにおいても、3 割弱の人々が差別や偏見を感じていることも無視できない。これを性別・世代別にみると、「道が狭かったり建物に段差があること」は 50 代～60 代の女性で高い傾向にある。「まちでの周りの人の視線や言動」については男女共若い世代で高い傾向が見られる。また 30 代女性が「学校の入学や進学の時」「学校での生活」において相対的に高い割合を示している。

問 28 は障害のある人が困っている時に手助けをしたことがあるかを尋ねている。回答者全体のうち、障害のある人を手助けしたことが「ある」人が 61.6%いる。性別・年代別にみると「ある」と回答した人の割合は、男女共に 50 代が最も高く、男性は 66.1%、女性は 78.0%である。全体の割合（61.6%）から見ても 50 代女性による手助けは顕著に多いようである。

問 29 は手助けをした経験のある人にその理由を尋ねている。最も多い回答は「困っているときはお互い様という気持ちから」で 72.4%、次いで「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」が 61.0%となっており、互酬性の規範が根付いていることをうかがわせる。問 30 は手助けをしたことがない人にその理由を尋ねているが、7 割が「障害のある人が困っている場面を見かける機会がなかったから」となっている。この方たちがそのような機会に遭遇すれば、手助けに回ってくれる人はかなりいそうである。

問 31 は普段よく利用する情報媒体を尋ねている。「テレビ」（74.7%）、「西宮市政ニュース」（57.6%）、「新聞」（49.2%）、「インターネットのニュースサイト」（39.5%）となっている。「西宮市政ニュース」が「新聞」を上回っている。これは質問文の最初の文「市では、障害のある人に対する理解を深めるための情報の発信を行っていきたくと考えています。」に引きずられてのことかもしれないことを割り引いても、「西宮市政ニュース」はよく認知されているとは言えそうである。年代別に見ると、高齢層が「新聞」と「西宮市政ニュース」、若年層が「SNS」、20～50 代は「インターネットのニュースサイト」とやはり世代ごとに利用している媒体が異なっている。

（関西学院大学 山田真裕）